千葉県こども病院広報 CHIBA CHILDREN'S HOSPITAL
かるガモ
第51号
http://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo
2020年〈令和2年〉6月

新年度を迎えて

病院長　星岡　明

新型コロナウイルス対応の真っただ中で4月を迎えましたが、皆様も日々ご苦労のことと存じます。当院におきましても、80名以上の新しい仲間を迎えましたが、集合形式の着任式やガイダンスは中止とし、文書による通知、説明といたしました。3密対策を徹底しつつ、職員研修、職員間のコミュニケーションの確保に力をいれ、これまで同様、質の高い医療、安全安心の医療を提供してまいります。

局長以上の幹部職員につきましては、事務局長として水貝昌弘にかわり伏居丈夫を、看護局長として高井孝子にかわり浮ケ谷芳子を迎えました。副病院長は伊藤千秋から中島弘道に、医療局長は中島弘道から皆川真規となりました。地域医療連携室は皆川真規が担当します。どうぞよろしくお願いいたします。

また、令和2年4月に小児消化器・内視鏡センターを開設しました。これまで小児外科と小児救急総合診療科が協力体制をとり、消化器・内視鏡外来として上部・下部の内視鏡検査、炎症性腸疾患等の診療を行って参りました。症例も増えておりますので、小児消化器・内視鏡センターを立ち上げた次第です。小児外科の光永哲也がセンター長です。これまでにも増して、患者さんをご紹介いただければと存じます。

また、病院運営において感染管理の重要性は増すばかりですので、今年度から感染管理室を独立させました。多剤耐性菌、流行性ウイルス、そして新型コロナウイルス等の感染制御に力を入れ、患者さんを安心してご紹介いただける環境を作ってまいります。感染症科部長、診療部長の星野直が管理室長です。

今年度は新型コロナウイルス対策がきわめて重要な1年となります。職員が一丸となり感染対策を確実に行い、当院でなければ対応が困難な小児手術患者、難病患者をはじめとした多くのこども達に、最高レベルの医療、安全安心の医療を提供してまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

令和2年5月

千葉県こども病院 新体制

病院長	星岡　明
副病院長	中島 弘道
医療局長	皆川 真規

副病院長
中島 弘道

副院長就任にあたって

このたび令和２年4月に副病院長を拝命いたしました。病院長を補佐し質の高い医療を提供できますよう努力して参りますので、よろしくお願い申し上げます。

私は平成14年に当院に赴任して以来、循環器内科の一医師として診療に従事してまいりました。その後、こども家族支援センター長、そして昨年度からは医療安全管理室長として勤めておりましたが、同時に当院の運営に携わることになりました。

当院はかねてより千葉県の中でも特に高度専門的な小児医療を提供する使命を担ってきましたが、これからもこども達のために最善の医療を提供することを最優先としていきたいと考えております。一方小児を取り巻く社会状況は厳しさを増し、少子化、虐待、経済健康格差、要医療的ケア児童増加などの問題が指摘され、多方面多職種からのサポートが必要となっております。そうした面に目を向けたとき、社会との協働における当病院の果たすべき役割はより重要になっていくものと思われます。

またこの春は新型コロナウイルス感染症流行があり、現在も皆さま苦慮されていることと存じます。昨年度は大雨などによる千葉県の被害もありましたが、これら災害時の医療に関しても整備を進めていきたいと考えております。

当院には外来や病棟のスペース不足、設備の老朽化、また経済的圧力や働き方改革など多くの困難があり今後これらの解決も含めた病院の将来構想検討も必要となります。

様々な課題がある中で今後も皆様の力をお借りすることになるかと思いますが、よろしくご指導、ご支援のほど御願い申し上げます。

医療局長
皆川 真規

医療局長就任にあたって

令和2年4月1日より医療局長を命ぜられました。昨年度に引き続き、こども・家族支援センター長、地域医療連携室長を兼務します。その他に経営戦略部長も兼務することになり、何でも屋感満点になりましたが、これらの部署の仕事は相互に強く関連しています。

経営戦略部とは何をする部署か？民間の病院なら、「収支バランスをとりながら、短期的、中期的、長期的な経営戦略を立てる」ことが求められ、長期的な戦略においては今後「やるべきこと(新規事業を含む)」と「止めること(あるいは縮小すべきこと)」を経営陣に提案することが主な業務でしょうか。では、千葉県こども病院の経営戦略とは何でしょうか？長期的戦略では日本、千葉県の小児医療と福祉の将来のあり方に沿って、こども病院の病院としての機能、役割を明確にしていき、病院、診療所、その他の関連機関との役割分担、連携を構築していくことが必要になります。中期的戦略の肝は「システムづくり」だと私は考えています。この場合のシステムとは、属人的でない組織と運用方法を指します。内向きのシステムは院内の業務運用の標準化(適切なマニュアルの作成と運用)と職員教育による実行と業務運用の継続的な修正です。外向きのシステムで最も重要なのは、地域連携です。もちろん、地域連携を担う当院の部署はこども・家族支援センターと地域医療連携室です。看護師、MSW、CLS（チャイルドライフスペシャリスト)、事務の他職種チームで連携をとって活動していますが、昨年度1年間で医師として自分にできることも少し見えてきたようにも感じています。本年度もよろしくお願いいたします。

新部門責任者

小児外科 部長
齋藤 武

約15年間千葉大学に勤務し、肝胆道疾患、消化管機能、炎症性腸疾患などの診療・研究に取り組んできました。これまでの当科の得意分野であった直腸肛門奇形や鏡視下手術などに彩を加えることができると思います。小児外科は6人所帯（指導医3人)となり、恵まれた環境で新生児・高難度手術に対応できます。ご紹介頂きました患者さんはもちろんのこと、当院諸科にかかりつけの基礎疾患を有する患者さんの診療にあたっています。安全・確実・低侵襲な治療を心がけ、他科・他職種と協働しやすい当院の強みを生かしながら、皆様の期待に応えてゆきます。そして、日常診療の中から小児外科学の進歩と発展に貢献する気持ちを大切にしたいと思います。

整形外科 主任医長
柿﨑 潤

2011年に着任し、様々な小児整形外科領域の疾患の治療に携わり、現在に至っています。当科では、先天性や後天性に関わらず、手・足から股関節・肩関節や脊椎疾患までの全身の整形外科的疾患の診療を行っています。“こども“という成長期に関わる整形外科的疾患を成長終了まで、責任をもって診療をしていきたいと思っています。これからもよろしくお願いいたします。

診療科紹介 脳神経外科

部長
沼田 理

脳神経外科では主に二分脊椎や頭蓋骨早期癒合症などの先天性疾患や水頭症、脳腫瘍などの病気を対象に常勤医２名による専門的な診療を行っています。小児の脳神経外科疾患は成人における疾患とは異なり、その診療面でも多くの点で特殊であることから対応できる病院は少なく限られています。このため当科には毎年県内の多くの施設から様々な症例が紹介されてきます。特に小児の脳は初期治療時にまだ成長過程にあることが多いため、疾患によっては一旦治療が終了した後でも長期にわたりその後の成長過程を見守っていく必要があります。当科では基本的にお子さんが成人期に達するまでフォローアップを継続しています。代表的な疾患としては二分脊椎が挙げられますが、この疾患では膀胱直腸機能や下肢機能などに関わる合併症が多くみられることから泌尿器科、小児外科、整形外科、リハビリテーション科などの他科と密に連携しながら患者様の成長に合わせた診療を行っています。また、就学時など成長過程の節目には患者様本人、家族と各科、外来看護師らが一堂に会して情報を共有しながらその時点における問題点について検討、さらには患者様自身の病識を高めて自立を促すことを目的とした二分脊椎外来も行っています。また治療経過中の患者様本人や御家族の心のケアサポートについてもこども・家族支援センター内の地域連携看護師、チャイルドライフスペシャリストやソーシャルワーカーら多職種と連携しながら関われるようにしています。今後も高度かつ安全な治療を患者様ご本人、御家族が十分納得して受けていただけるよう努めて参りますのでよろしくお願い申し上げます。

診療科紹介 新生児・未熟児科

主任医長
鶴岡 智子

いつも大変お世話になっております。新生児科の鶴岡と申します。

新生児科は、一時は常勤医が減り、存続の危機もありましたが、院内院外の皆様のご協力もあり、なんとか継続しています。これまで数年はレジデントの先生を含めて３～４人で細々とやってきましたが、昨年11月、今年５月に医師が増え、久々に明るいニュースとなりました。現在は常勤医５人、レジデント医師１人（半年間）で、元気な看護師さん・病棟スタッフに囲まれ働いております。また、MSWの狩野さんやこども家族支援センターの皆様、遺伝カウンセラーの秋山さん、臨床工学師や病棟薬剤師の皆様など多職種にささえられています。

NICU病棟は、NICU６床、GCU 15床で、患者さんは近隣の産科クリニックや県内各NICUよりご紹介いただいています。先天疾患をもつ患者さんが多く、先天性心疾患、脳外科疾患、小児外科や泌尿器科・整形外科など外科系疾患の患者さんが多く入院されます。内科系では呼吸障害や新生児仮死などの新生児疾患に加え、染色体異常、先天代謝異常症や内分泌疾患の患者さんもこられます。複数の疾患をもつ患者さんも多いため、院内各科の先生方にご協力をいただきながら、診療しています。院内の遺伝診療センター・口唇口蓋裂診療センターにも属しています。

現在は産科医不在のため、院内での分娩ができません。胎児診断のついている患者さんについては、胎児期には千葉大産科の先生方の協力のもと、産科外来に来ていただき、NICUの見学もしていただいています。分娩時期を相談させていただきながら、千葉大学附属病院や県内の周産期センターで出産していただいて、赤ちゃんを搬送していただいています。出産後のお母さんについては、産科病棟で産褥入院（かるがも支援入院）を受け入れています。

退院後の患者さんを乳児健診や予防接種などでご紹介させていただくことも多いと思います。今後もよろしくお願いいたします。

千葉県こども病院で行う「成人移行期支援」

成人移行支援室　小児看護専門看護師　**堂前 有香**

小児期発症の慢性疾患をもつお子さんも、成長されて成人期を迎えられます。その方それぞれが、自分の体や治療について理解をされ、大人になってからも自律的に体調管理ができるように、当院では2018年度より成人移行期支援運営委員会を立ち上げ、当院通院中の患者と家族の支援に取り組んでいます。自分で記載ができる12歳以上の外来患者さんに、病名や服用している薬の理解について「アセスメントシート」に記載をして頂き、理解を確認しています。併せて、今までの治療歴や、生活上の注意点などについて自分で記載をする「マイ・パスポート」を作成しました。これを患者さんが記載することで、自分の理解を整理することにつながります。

成人期特有の病気や妊娠出産などへの対応には、成人診療科の受診が必要になります。患者さんの意思で今後の医療機関を選択できるように、患者さんやご家族に情報提供を行いながら意思決定を支援しています。また、複数の診療科を受診していたり、時間をかけた面談が必要な患者さんには、トランジション外来で看護面談を行って、個別支援を行っています。ご意見やご質問があれば、ご連絡下さい。今後ともよろしくお願いいたします。

堂前看護師　　數川部長　　岩井スキルフルドクター

《千葉県こども病院 登録医のご紹介》

医療法人社団 恵翔会 アリス耳鼻咽喉科
工藤典代（くどう ふみよ）

〒262-0033 千葉市花見川区幕張本郷2-36-21 ワンダーランド2A
TEL 043-350-3387　FAX 043-350-3386

診療時間
9:30 ～13:00
15:00～18:00

休診日
木曜午後・土曜午後・金曜日・日曜祝祭日

受付カウンターでスタッフと（右から3番目が工藤先生）

皆さん、こんにちは。アリス耳鼻咽喉科の工藤です。1988年8月、千葉県こども病院準備事務所時代に赴任し、2006年3月まで約18年間、耳鼻咽喉科に勤務しておりました。その後、千葉県立保健医療大学勤務を経て、2016年9月に幕張本郷駅から徒歩7, 8分のところに開院しましたアリス耳鼻咽喉科の院長になりました。こども病院在職中は内科系外科系麻酔科の先生方をはじめ多職種の方々に大変お世話になり、多くの患者さんの診療に携わることができました。当時の経験は現在の診療にも生かせています。

アリス耳鼻咽喉科の母体は恵翔会で、20年以上幕張本郷駅近くで小児科を開業されていた岩田裕子先生が理事長です。病児保育室（うさぎのあな）を併設されており、小児医療や地域医療に取り組まれている姿勢に感銘を受け、迷いはありましたが院長職をお引き受けすることになりました。

当院は住宅街にある3階建ての2階にあります。フロアの隣は病児保育室、1階が小児科と調剤薬局です。耳鼻咽喉科という性質上、超高齢の方や車椅子の方々の来院も想定し、バリアフリーになっています。先日は全盲の方が盲導犬と一緒に来られました。

診療室の中

こども病院時代のご縁で千葉県内の先生方や近隣の小児科の先生方から多くの患者様をご紹介いただきます。手術や精査が必要と思われるお子さんにはこども病院をご紹介させていただいております。適切に対処していただき、患者様からも喜ばれております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。